

三池に来年も



発 行 所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町, 2
電話 ③3033 番
③3034
編集兼 澁田 紀生
路行人
年間600円 送料共

人間をとりもどすために

大集会の誓い
七〇年へ強めよう闘い

写真上は、この日のスローガンを掲げて
すすむデモ。下は大集会の全景。



「一・一・九三池大震災七年忌、
労災災害、公害、職業病から命を
守る大集会」を柱に、八十九十
の三日間にわたって開催された一
連の記念行事は終わった。

山本炭労委員長は、大集会にお
ける追悼のことはあつたように、
その日が「それは地上と地下で、
すなわち側見と三池で、戦後最大
の大惨事が発生した日として、炭
鉱労働者だけでなく、日本人にと
って忘れることのできない日」で
もあつたからが、五千の人々が集
まつて開かれた大集会は、とりわ
け酸欠な空気に包まれた。」

炭労、秋闘を妥結

去る五月六の二日間、東京で開かれた第五十九回臨時大会の決定にもとづき、期末手当闘争に突入していた炭労は、十九日の深夜に至り、会社から出された七万五千二百圓の回答の受諾を決定、その翌日からはいることにしていたストライキを中止した。

全炭鉱労作者の切実な要求にもとづき、はじめの案を改めてまで

も提出した十二万二千円という要求にはほど遠く、またしても大きな期待はずれに終わった。早くも職場には「いまこそ、生活問題を抜本的に考え直すべきだ。何とかしなければ……」との、真剣な討議がはじまっている。

大集会のほか、同日市民会館で行なわれた統一交流集会、翌十日延命会館で開かれた総括集会をもって、討議をさらに深め、全参加者は重大決意をもって、それぞれの地域や職場で命を守る闘いを発展させるために闘うことを誓い合い、帰っていった。

広がる命を守る闘いの火

職場たずね討議開始

胸に生きる“三池”の教訓

北摂地評防災職業病対策会議の豊田さんから、さきの二一・九大集会の決定をうけて、「七〇〇年に向け、さっそく生命を守る闘い」の強化に乗り出したとの、力強い便りがありました。他からあつ寄せられています。とのあえずその便りを紹介します。

十一・九の三池大震災七回忌大集会にさいひしましては、当対策会
 議より参加いたしました諸君に対し、何くれとなくご配慮をいただき、感謝致します。

傍者に呼びかけて開催する予定で
 安保と三池の合言葉で闘われた
 六〇年の安保闘争より早や十年た
 ちますが、その後の三池の闘争も

十二月二十一日には宮崎さん（三池出身者）を含め、大集会参加者の諸君の報告集会を、地域旁とりわけ以後の生命を守る闘いの

大集会参加の
諸団体の代表

大集会には〇〇患者・遺族を包みながら結集した三池労組員とその家族のほか、全国からかけつけたきたあらゆる組織の代表者が参加した。

公書關係では富山イタイイタイ病、カネミ油症、水俣病（水俣、新潟とも）、阿賀野有機水銀中毒などに苦しむ患者や活動家たちが集った。

職業病関係では高分子化学労働、北摂労災対策会議（大阪）、全金じん肺対策会議（栃木）、紙

遂に「自宅待機」を強行
新日窒労組、撤回めざす

「合理化の新日鐵労働組合は、会社側ののはげしい「首切り合理化」の攻撃と闘っているが、会社側はかねて取沙汰されていた通り、去る十五日まづその第一次の具体的攻撃ともいふべき「自宅待機」(実質首切り)をこの攻撃開始に対し、同労組は直ちに二十四時間ストライキをもつて抗議するとともに、強行した自宅待機処置を、会社側に撤回を求めて闘っている。

根源はすべて資本の水俣からの撤退作戦から出ているというが、第二組合はすでに受諾した。そのため第二組合の一執行委員は、責任を感じ工場内で自ら命を断つたはげである。

バルブ労連興人労組（八代）と福
岡製紙労組、全林野労組（宮崎、
鹿児島その他）、大幸銘板（大
阪）、大分銀行労組、私鉄総連
（東京）、炭労九州では日炭高松
の労組と労組、飯野労組、立川労
組など、東京労金労組、兵庫土建
人労組（神戸）、その他の参加があ
った。

三池ＣＯ患者守る会関係は、高
知交通労組、横浜交通労組、国鉄
労組東京、東京都聴労、東武交通
労組、荒尾・大牟田の各守る会、
そのほか多数の参加があった。
そのほか総評、炭労など単産代
表、府県評代表、各民主団体や婦
人団体代表、社共両党代表などが
参加した。

に、ヘルムートをかぶつて参加したとのことで、その時の思い出が話され、とりわけ三池出身の宮崎さんの生命を守る闘いの重要性についての訴えは、集ったみんなに大きな感銘を与えたようでした。今年に入りましてこの北摂地域において、鉛中毒、母体保護、じん肺患者の発生など、それらの防止の闘いが続いております。そしていまではこの大阪府から、京都、兵庫の両府県にまたがった民間組織が生まれようとしています。

し、戦争政策への闘いを強めてゆく一念であります。

CO患者を守る会の拡大と、すべての職場で生命を守る闘いを徹底的に強化すること、その闘いを通じて三池の闘いと連帯すること——これが七〇年に向けて、私たちに課せられた課題であると信じます。

宇山カーボンの仲間も、元気で新しい職場で活躍しております。来年はぜひ、対策会議代表を三池に送り、それを通じてさらにみなさん方との交流を深めたいと考え

青年勞働者の老人化、子どもの生めぬ婦人勞働者の増加など、政府・独占の戦争政策を支える資本す。

(なお北摂地評労災聴業病対策
会議の住所は「大阪府高槻市紫
町二番一号」です)